

大学院自然科学研究科の中野和弘教授が日本農業工学会フェローの称号を受彰

大学院自然科学研究科の中野和弘教授が、長年にわたり農業工学分野の学問技術の発展に継続的に顕著な功績をあげたとして、日本農業工学会からフェローの称号を授与されました。

中野教授は、これまで「環境保全型農業のための支援アルゴリズムの開発に関する研究」により農業情報学会賞（平成 24 年度学術賞）を、また「農業施設における計測と制御に関するシステム工学的研究」により農業施設学会賞（平成 22 年度学術賞）を受賞するなど、農業生産活動のシステム化に関する研究を推進してきました。また農業情報学会副会長、農業施設学会理事など多くの学会運営で多大な貢献を果たしてきたとして農業情報学会から同称号を推薦されたものです。

平成 27 年 5 月 12 日開催の日本農業工学会総会において行われた授賞式では、中野教授に表彰状とバッジが授与されました。

日本農業工学会は、農業生産に関する基盤、作業、機械化、環境改善等の工学技術を研究する10の学術団体から構成された連合組織であり、国際農業工学会の事務局も運営しています。



表彰状を授与される中野和弘教授（写真左）